

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

鳥取県日野病院組合 日野病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	21	-	ド透訓	救へ輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	8,247	第1種該当	-	10:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
99	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	99
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
99	-	99

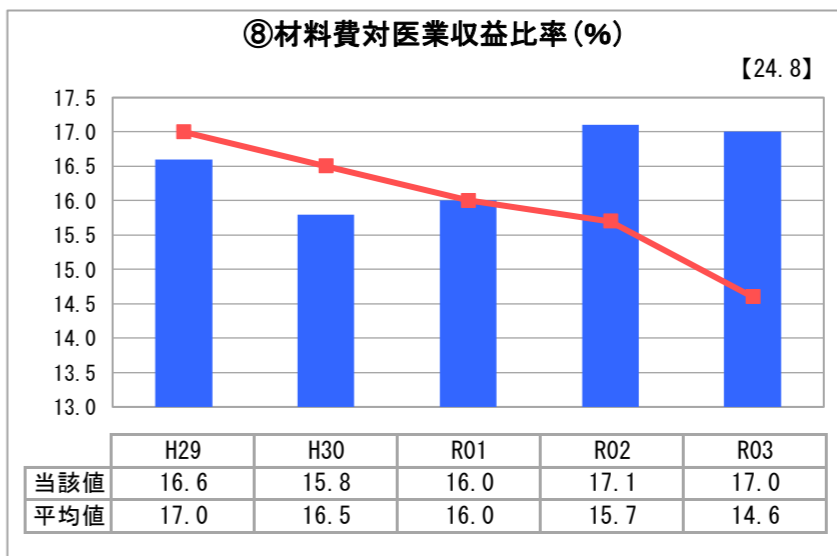
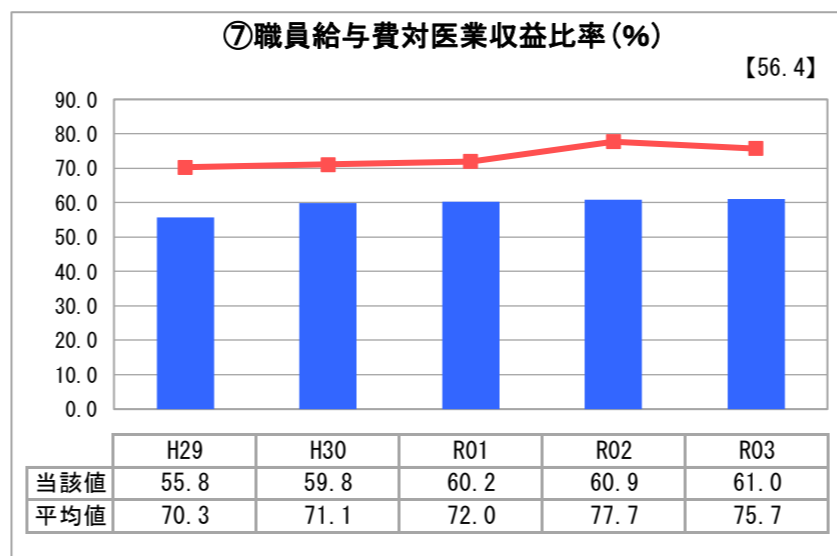
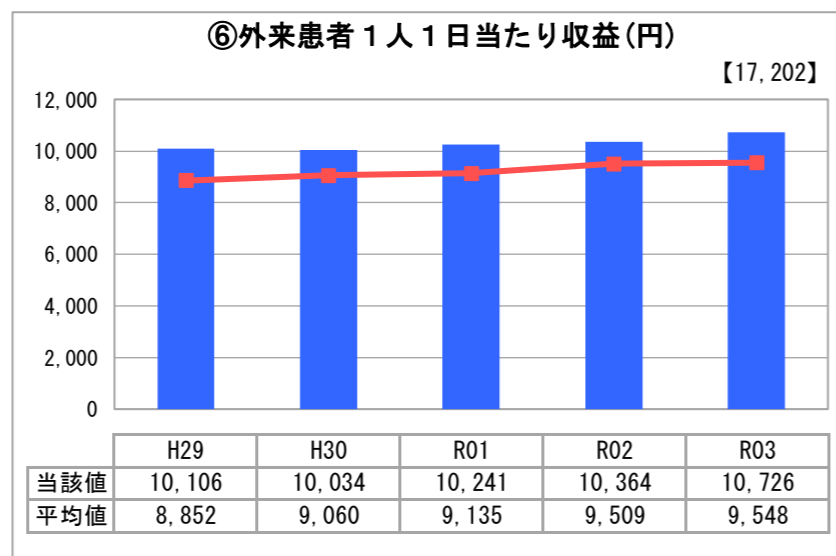
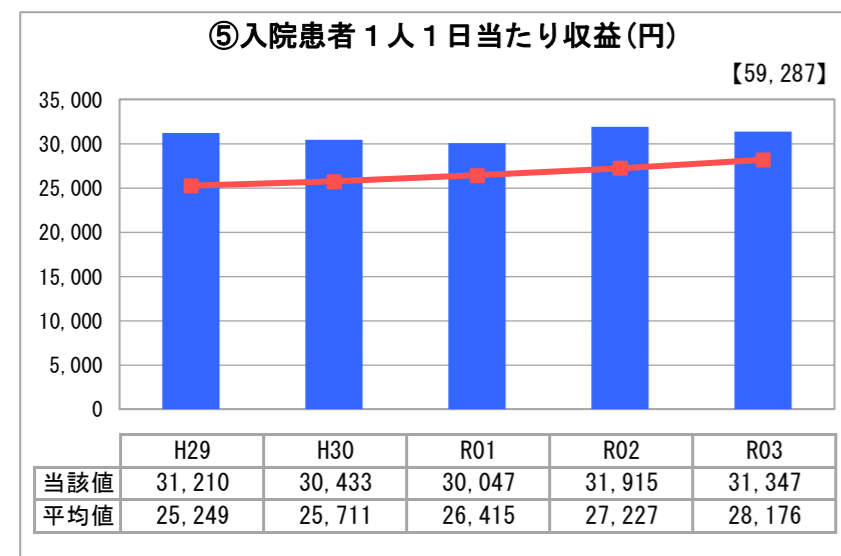
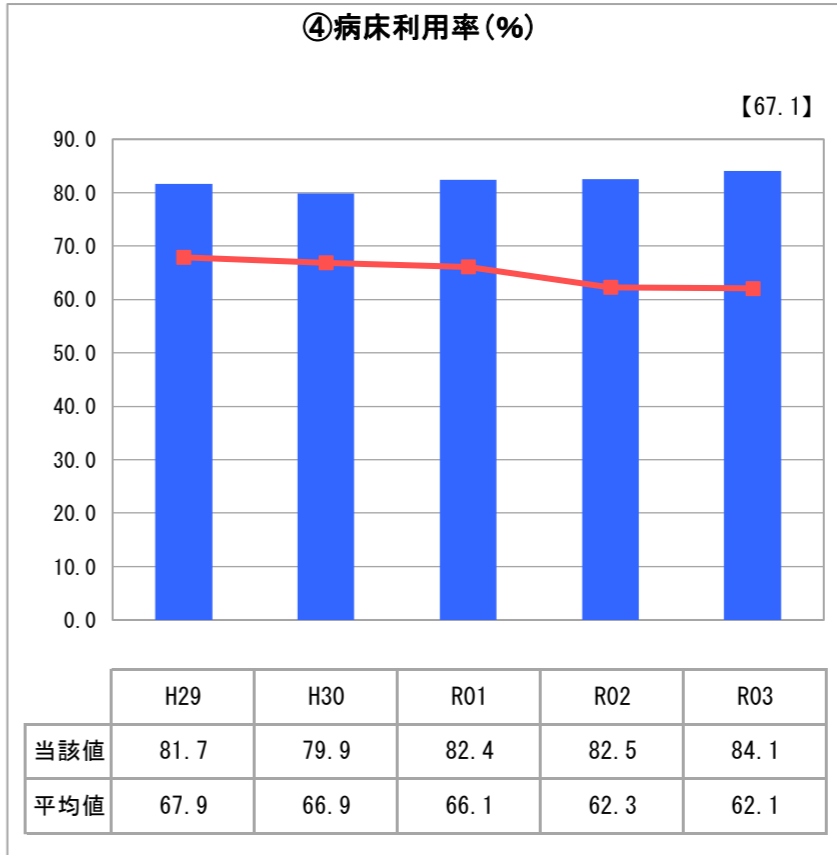
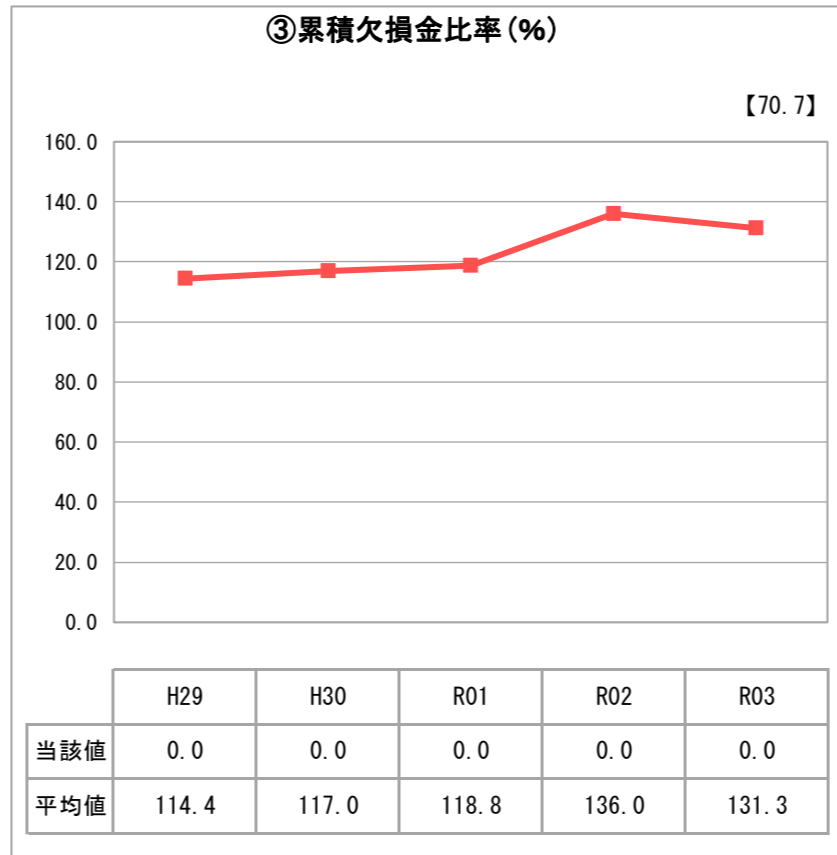
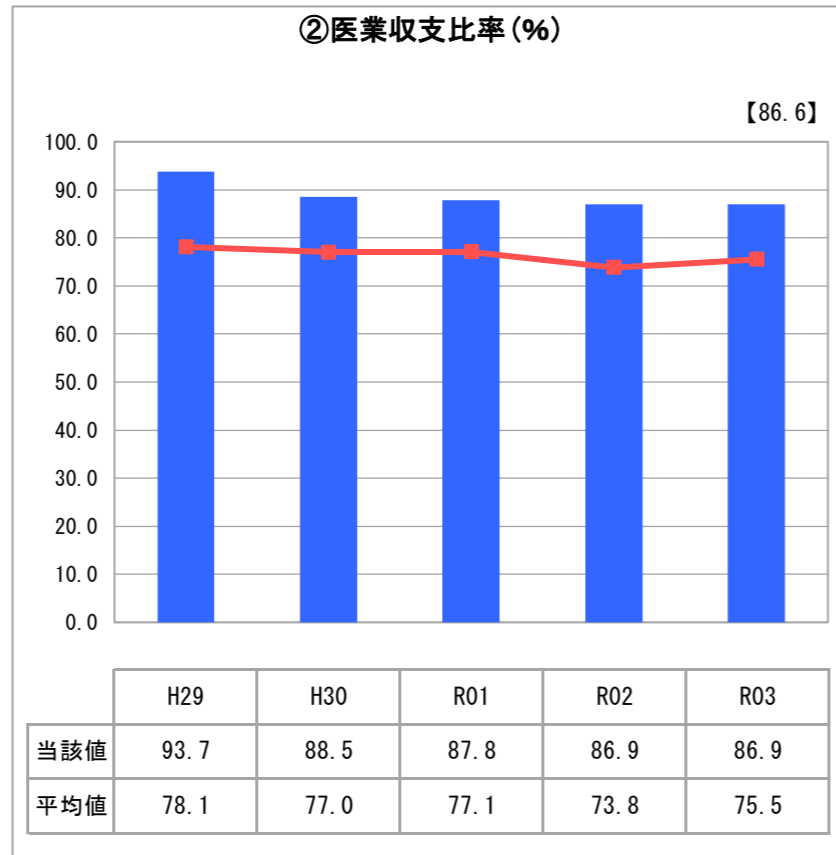
**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

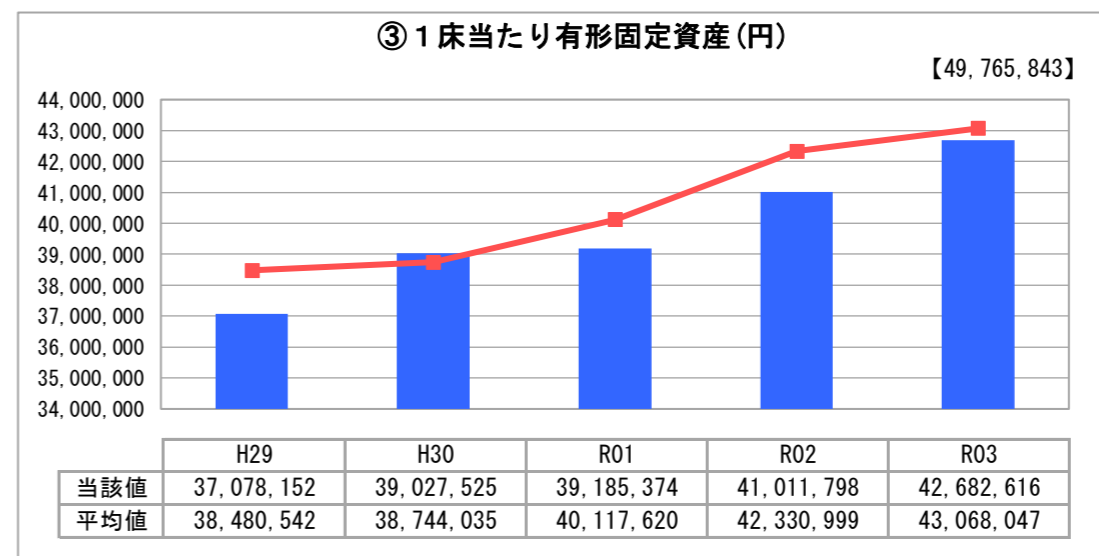
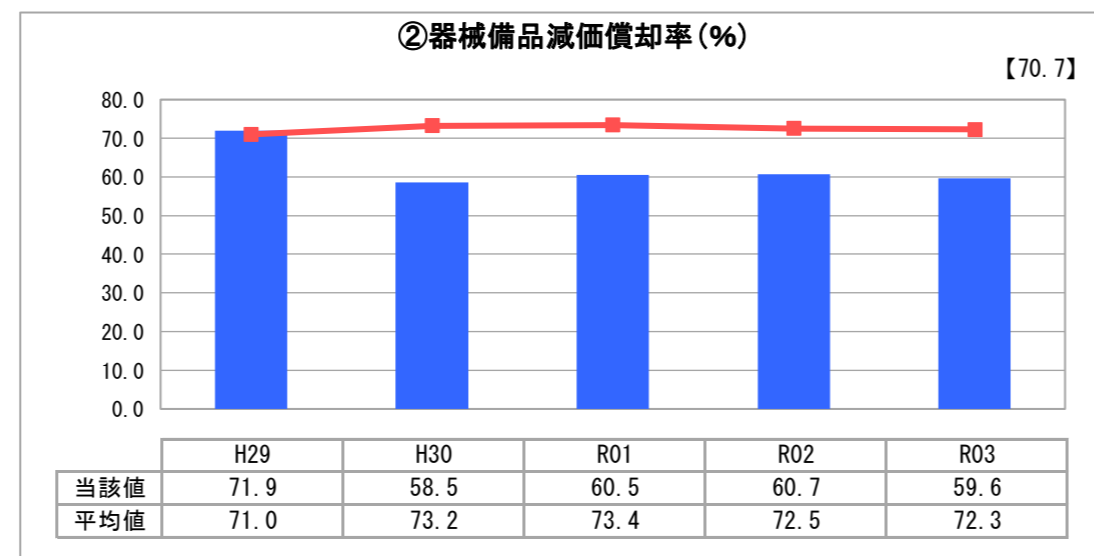
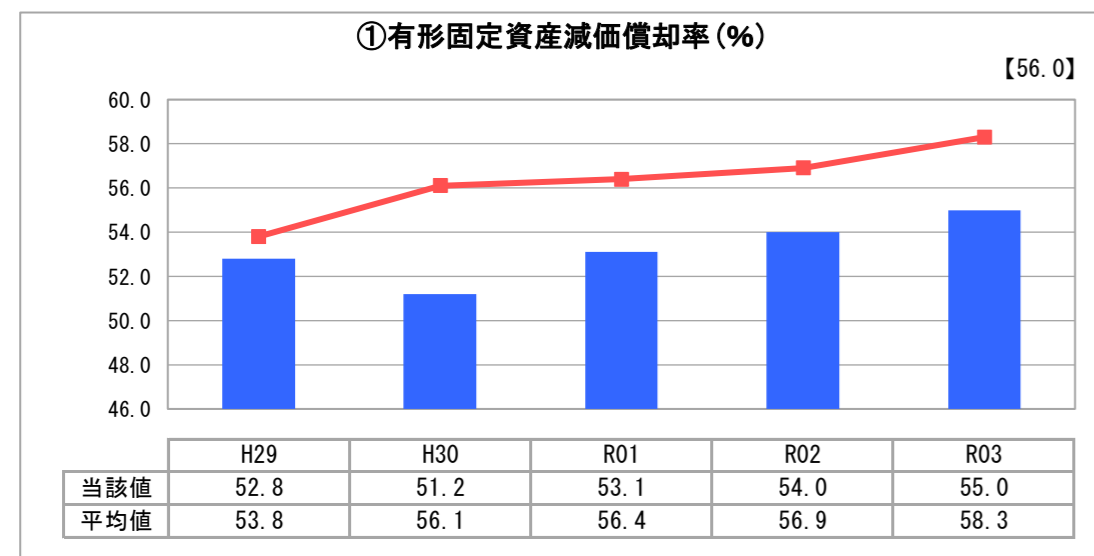
公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## I 地域において担っている役割

日野病院が所在するこの地域では、専門性の高い医療はもとより幅広い総合的な医療の提供が求められており、このようなニーズに応えるべく内科・外科・整形外科・眼科・小児科の常設診療科に加え、総合診療科を週4日行うなど、地域住民に対し幅広く総合的な医療を展開している。

一方で、近隣に医療機関が少なく専門的外来が存在しないため、専門外来を開設し幅広く患者の要望に対応することも必要である。小児科や婦人科など経営上不採算となる診療科についても、地域づくりの観点から若い世代に安心して定住してもらうため、今後も診療の継続に努めていく必要があると考えている。令和3年度には、MRI装置・CT装置の更新によりさらに充実した医療をこの地域で提供できるよう努めたほか、人工透析患者送迎サービスを開始した。

入院患者の受け入れについては、地域病「急性期から慢性期まで」を基本方針とし、加えて、大学病院などの高度急性期病院からの回復期患者を受け入れる役割も担っている。また、鳥取県のコロナウイルス感染症患者受け入れ機関として、医療機器、施設整備をして患者受け入れもしている。

また、訪問診療や訪問看護などの在宅医療の積極的な推進や、無医地区での診療所の開設、公共交通機関による通院が不便な地区に患者送迎車を運行するなど、「へき地医療拠点病院」の指定病院として、へき地医療を守る役割も担っている。

さらに、地域医療の担い手となる医師を含めた医療従事者を養成することも当院の重要な役割であり使命である。平成26年6月に鳥取大学のサテライトセンター（鳥取大学地域医療総合教育研修センター）が院内に開設されたことにより、より一層、教育研修施設として役割が強くなってきている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率をはじめ、経営の健全化・効率化に係る全ての指標において、⑧材料費対医業収益比率を除いて類似病院を上回っている。特に収益に関する1人1日当りの診療単価や病床利用率について、大きく上回っていることから、入院患者透析・リハビリ・各検査の充実等、プランに掲げた経営効率化に向けた施策が結果として表れてきていると言える。

⑧については、令和2年度と比較してほぼ変わらない数値となっているが、令和3年度中旬から医薬品の共同購入により仕入れ額の削減に努めている。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率が類似病院と比べ下回っているのは、病院建物が平成12年度に建設したもので、比較的新しいからである。ただし、建物に附属する空調設備や消防設備等については、故障等により必要に応じて更新をしている。

また、器械備品について、平成30年度以降、全国平均を下回っているのは、平成30年度に電子カルテシステムを更新したためである。それ以前において減価償却率が類似病院を若干上回っているのは、耐用年数を超えている医療機器が多数あるためであったと考えられる。これについても、必要に応じて更新をしている状況である。

### 全体総括

令和2年度に続き、令和3年度決算は黒字決算となったばかりでなく、経常収支比率をはじめ、経営の健全化・効率化に係る多くの指標において、類似病院を上回っている。

また、平成18年度末に約6億円あった累積欠損金が平成24年度末に剰余金へと転換し、令和3年度末は7億9千万円余りとなっていることから、長期的に安定経営が持続している状況である。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。